

医療従事者と語る会が 開かれました

若手医療従事者の助言参考

飛騨高山高生 語る会で進路選択考える



看護師や理学療法士などの若手の医療従事者と語る会が、高山市下岡本町の飛騨高山高校岡本キャンパスであり、生徒が進路選択について考えた。

医療従事者（右から1、2人目）の話を聞く生徒＝高山市下岡本町、飛騨高山高校岡本キャンパス

身近な医療従事者から仕事の苦労ややりがい、キャ

リアプランを聞くことで就職後のギャップ解消につなげようと、初めて開いた。岡本、山田キャンパスの35人が参加した。飛騨市民病院で働く畠山奎さん(24)は「心の支えになるような看護師でありたい」とモットーを紹介。学生時代を振り返って「自己分析をすることで自分を他人と比較しなくなり、生きやすくなった」と助言した。

1年の三島颯天さん(16)は「なんとなく理学療法士になりたいと思っていたが、気持ちが強まった」と話した。(安井真由子)